

電八倶楽部「電信八号」関西編インタビュー記録

2002年11月27日 於：大阪市総合生涯学習センター第3会議室

インタビュー対象者： 岩井 雅治 氏
寺島 裕貴 氏
福井 貴弘 氏
本田 善久 氏
山田 智史 氏
和田 和子 氏

インタビュー担当者： 藤田 英樹・生稲 史彦

➤ 開発プロセス

パッチ作成・ビルドのプロセスについて

- ・ パッチ作成は必ずしも WishList の作成を経由するわけではない
- ・ WishList に入っているからといって、それらがすべてパッチになり公式ビルドに反映されるわけではない
- ・ WishList の位置づけは、ユーザから寄せられた要望を参照する際の、開発者(公式ビルダも含む)の便宜を図るもの

WishList の位置づけについての補足¹

- ・ WishList は、ユーザから投稿された修正や機能追加の要望を取りまとめて、日本語で記述したものである
- ・ 公式ビルダに限らず開発グループの誰かが、これらをプログラムとして実現するための修正パッチを作成する(誰もパッチを作成しなければ、その要望は未処理のまま WishList に残り続ける)
- ・ WishList に入っている、開発グループの誰もパッチ作成の義務を負うことはない
- ・ 要望の内容に共感した開発者が、パッチ作成により実現方法を提案する
- ・ 公式ビルダは、投稿されたパッチを可能な限り(不整合を起こさない範囲で)公式ビルドに取り込む
- ・ この際、先述のように、WishList に載らなかった内容のパッチが取り込まれることもある
- ・ ただし、多くのパッチを公式ビルドに統合する際に、WishList は取り込みの優先度を判断するための重要な参照情報になっている

¹ 後日、連絡係の伊澤氏から WishList についての詳細な補足があったので、ここに記載することにした。

➤ 電信八号への関わりについて

山田氏

- ・ 現在は開発に参加しておらず、ユーザでもない
- ・ 1996年か1997年、会社(NECのソフトウェア開発子会社)に勤務していたが、当時はメール・ソフトが少なかった
- ・ 「AL-Mail」や「WeMail」を使ってみるが、特別使いやすさを感じなかった
- ・ 同じNECの石岡氏が「電信八号」を開発、公開していることを知り、使ってみる
- ・ 自分自身でフリーウェアを作っていたので、石岡氏が開発をしていた時代に「電信八号」の「お助けソフト」も開発・提供
 - 「電ラブ」...外部ソフトのビューワ
 - 「電信八号++」...後「電極Z号化計画」
 - 「返信八号」...Perlを利用して返信フォーマットを作るソフト(ただし、ユーザからは無反応...)
- ・ 「電信八号」の使用時期は、1996 or 1997年～2000年頃
- ・ 昔(wizvax や ask)のメーリング・リストのログを見れば、参加状況が分かるはず
- ・ 「電信八号」のREADME.TXTにMH云々と書いてあるのを見て、それならと思い使ってみた
- ・ 現在は、Web系システム(管理システム・予約サイト・販売サイトなど)構築を手がける個人事業者である
- ・ (会社勤務時代と比べ)SOHOになると予想外にソフトウェア開発に時間が割けず、現在はフリーウェア・シェアウェアを作ろうと思ってもなかなかできない状況

福井氏

- ・ インターネットにさわり始めたのは、それがはやり始めた1996年末頃
- ・ 定番のメーラがなく、Internet Magazineの付録CDに入っていた「電信八号」をその候補に考える
- ・ 当初はWebブラウザとして使用していたNetscapeのメーラ機能を利用していた
- ・ 後々データをコンバートすることを考えると、メール・データがテキスト・ファイルになっている「電信八号」が好都合
- ・ 「エディタ・ベースの人間(何にでもエディタを使う/使い慣れないエディタは絶対に使いたくない)」なので、エディタ・フリーの「電信八号」が好都合
- ・ 現在はほぼPlug-inなしでプレーンな「電信八号」を使用

- ・ 「電信八号」のメーリング・リスト(電八倶楽部)に参加したのは、1996年12月下旬
- ・ 電八倶楽部は、ユーザの親睦のためのメーリング・リストと考えていたため、その後はほとんど講読のみのメンバー(ROM: Read Only Member)

- ・ 1999年7月に、条件付きながらソースコードが公開され、誰でも開発に参加できると聞いたので、開発を行う電八開発倶楽部に当初から参加する(「開発に参加できるなら！！」)

- それまでも他のソフトなどでプログラミングの経験あり
- もともとオープンソースの考え方には賛同していた
- 「ソースコードがさわれるなら参加せざるを得ない！」
- 2000年6月15日に、公式ビルダに就任
- 発足当初の電八開発倶楽部では、パッチを誰もまとめていなかった(これも過去ログを見れば分かる)
- 電八開発倶楽部内でも、約1年間パッチがたまり、それがバイナリ版に反映されないことで倶楽部内にフラストレーションが溜まっていた
- フラストレーションが2000年始めに限界に達し、公式ビルダの中村氏が「辞める」とまで言い出す事態になる
- 「ユーザにフィードバックできるなら」と考え喜んで公式ビルダに立候補
 - パッチがあって、個人的にビルド(プライベート・ビルドを作成することが)できる人にはそれが使えるが、普通の人には利用できないのは不公平・不条理だと考えていた
 - 「誰でも使えるようにしたい」「みんなの役に立ちたい」「みんなに使ってもらいたい」
- 福井氏個人としては、ソースコード公開の1年前くらい(1998年頃)には使用をやめようかと考えていた
 - (バージョンが上がらず)不便さが解消されないから
 - 少なくとも自分の使う「電信八号」は不便さが解消されて欲しいと思う
 - ソースコードが公開されたので、開発に参加しようと思う
 - 「自分でビルドができない人にもパッチ、不具合修正の恩恵を享受して欲しい」と思う
 - 公式ビルダに立候補
- 公式ビルダ就任後の方針は「溜まったパッチを消化しよう」
- 最初のビルド(2000年3月15日; b6-stable)はバグ・フィックスのみ(このバージョンには福井氏はタッチしていない)
- その次の公式ビルド(V321.2a71)の作成は福井氏が担当し、溜まっていたパッチを取り込み機能向上・不具合修正を果たす
- 当時、1~2ヶ月間は「電信八号」にさわるのが仕事のような状態で、版の公開も非常に速かった(=「週刊電八」状態)
- この期間から、とくに不安定なバージョンを 版として、電八開発倶楽部内限定で公開することが通例となる
- その後は、毎週いくつかのパッチを受け入れてビルドを作成する状態になる
- 秋ごろまで同等以上のペースで、中村氏が公式ビルドを作成する
- 最初のパッチ統合という作業が終わり、福井氏自身の作業(電八 FAQ 集の移管作業を行っていた)が落ち着いたころには、自然に中村氏と交互にビルドするようになっていた
- こうした状況(1週間交代のビルド)には、新しい公式ビルドは毎週出るが、公式ビルダの仕事は

隔週でよくなる(作業は軽減される)という期待があった

- ・ 最近、福井氏がビルドを担当することが多い
- ・ パッチが少ないので、ビルドは滞りがち
- ・ パッチがいくつか上がってきたら作業に取りかかるという具合
- ・ 「数字遊び」が好きなので、キリの良い日、節目の日にビルドを作成、タイムスタンプを合わせるということをしたい(ビルドした日付がファイルのタイムスタンプとして残ると嬉しい)
- ・ ビルドを作る作業は機械的なので、半日~1日かければ、履歴テキストの更新までできる

岩井氏

- ・ 現在は環境が Linux に移行したため、電信八号は殆ど使っていない
- ・ 大学入学後、パソコンを使うようになり、Windows と UNIX の環境を利用する
 - 「電信八号」の環境設定、ユーザ・インターフェースに抵抗感無し
- ・ 1999 年後半~2000 年始め頃、Outlook Express から乗り換えて、「電信八号」の使用開始
- ・ 「電信八号」を選んだ理由
 - 他に見あたらなかったから
 - 学生であったので、ただで使用できるものが欲しかったから
 - エディタが選べるのも魅力的
- ・ 「電信八号」は無料であり、かつ、シンプルな機能美²を目指しているように思われる
 - 「そういったことや環境設定、ユーザ・インターフェースに抵抗がある人は、他のメール・ソフトを使えばよい」という考え方ではないか
 - ただし、Outlook にはセキュリティ上の問題があるが...
- ・ 現在、電八倶楽部内でも、もっと環境設定を容易なものに変更(=インストーラの追加など)をして、初心者向けに敷居を下げるべきだという意見と、現状のままでよいという意見、両論がある

- ・ 現在、電八開発倶楽部は講読のみ(ROM)
- ・ 電八倶楽部は講読中心で時折「電信八号」とは直接関係のないメールを出したりするくらい

和田氏

- ・ 伊澤氏に誘われて、is-uno に参加
- ・ 「電信八号」の存在を知る

- ・ (自分が初心者なので)初心者が「電信八号」を使うとどうなるかということに関連メーリング・リストに報告したことがある
- ・ 現在の「電信八号」の使用状況は、受信するメールのスクリーニングに活用している

² 筆者による解釈。例としてあげられた「ユーザ・インターフェースの非冗長性」などは「機能美」と称してよいと思われる。

- 「電信八号」はメール受信時に、POP サーバ上のメールのヘッダ部分だけをダウンロードして表示することができる
- そこでヘッダを参照して、受信しないメールをサーバ上から削除したり、必要なメールだけを選んで受信したりすることができる
- ・ 電八倶楽部は、見に行かねばならないメーリング・リスト(理由については後述)

寺島氏

- ・ 1997年(中学1年生)頃から、父親のインターネット環境、パソコンを使用
 - Internet Magazine の付録で「電信八号」を知るが、当時は価値が分かりかねたため、Netscape を使用
 - パソコンにのめり込み、プログラミングをするようになって、自分の環境構築にこだわりが出てくる
 - メール・データの保存形式が重要であることに気づく
 - メール・データの保存形式などから見ると、Al-Mail も Netscape も不満
 - 「電信八号」の価値を再発見(ただし、石岡氏の他のソフトは使用経験あり)
 - 「昔と状況が変わっているな」と思いつつ、使ってみるとその良さが分かった
- ・ やはり「電信八号」の価値・良さが分かるためにはある程度の知識が必要だと思う
- ・ 学校関係のメーリング・リストに参加
 - 伊澤氏が同じ高校の先輩であったため、is-uno に参加
 - 電八倶楽部に参加

本田氏

- ・ 仕事柄メインフレームのコンピュータを使用することが多い(パンチカードの時代から使用)
- ・ 電子メールもメインフレーム上で IBM の BITNET(「フォルダ構造・ヘッダが丸見えのもの」)を使用
- ・ パソコンに移行しても、パソコンをクライアントとしてメインフレームを利用していたが、それもめんどろなのでインターネットを利用したメーラを使うと思った
- ・ インターネットが普及し、パソコンでメールをやりとりするようになった際に、「無料のもの」「ヘッダを隠してしまわないもの」を探していて「電信八号」を見いだす
- ・ メーリング・リストへの参加は、ask サーバーの終わり頃に、「RFC 準拠であるなら大文字と小文字を区別しないようにすべきだ」と発言したのが始まり
- ・ 基本的に1ユーザであり、時折投稿する程度の参加状況
- ・ 電八倶楽部は元来ユーザの集まりであり、それがソースコードを預けられて多少混乱していた観があった
- ・ この頃は大体体制が固まってきたが、公開版のリリースのタイミングは...(公開版を作ろうとい

う意識が希薄なのではないか)

➤ 「電信八号」の魅力

山田氏

- ・ ユーザとしては、エディタ・フリーであること
- ・ プログラマとしては、テキストで書かれているため、「いじり易い」「いじくり倒し易い」ところが魅力的
- ・ 「UNIX フレーバー」(=エディタ・フリー、1メール1ファイルのテキスト形式、動作の仕方)であることも、魅力の一つ

石岡氏とは同じ NEC グループの企業に勤務していたが、直接的な面識はない

- threeweb 時代にメーリング・リストに投稿されたメールを見ていて NEC のアドレスに気づき、「ああ石岡さんは同じ NEC だな」と気づいた程度
- WeMail も NEC の人(NEC テレコムシステムズ)が作ったソフトだったが、「電信八号」の方が UNIX フレーバーだったので「電信八号」を選んだ

福井氏

- ・ 「電信八号」のユーザ・インターフェースは、16bit 時代の Windows3.1 に近いと思う
- ・ むしろ「電信八号」の背後の動作が「UNIX ライク」であると思う
- ・ 「電信八号」の魅力の1つとして、「動作の軽快さ」は確かにある
- ・ 1995 年頃パソコンを使うようになったが、Windows95 も、16bit 版の環境も嫌いで仕方がなかったため、当初から WindowsNT3.1 を使用
- ・ 「電信八号」も当初は 16bit 版を使っていたが、後 32bit 版に移行
- ・ UNIX の使用経験はないが、DOS の使用経験はあるため、「動作が透けて見える」「電信八号」のようなソフトウェアが魅力的
- ・ 「エディタ(VZ エディタ)好き」=可能な限りエディタを使うので、エディタ・フリーな「電信八号」がメール・ソフトとして好都合
- ・ 電信八号の魅力は、
 - 「皮の薄さ」(=「動作が透けて見える」「ゴテゴテしたユーザ・インターフェースをかぶせていない」³⁾)
 - 「動作のシンプルさ」
 - エディタ・フリー
 - バックアップの容易さ

³⁾ 2 点目の特徴は藤田による補足。

- ・ 開発に参加しているのは、「自分で使っているものは自分でメンテナンスしたいから」

岩井氏

- ・ 無料であること
- ・ エディタ・フリーであること
- ・ 1通のメール・データが1つのテキスト・ファイルになっていること

- ・ ユーザであるのでメーリング・リスト(電八倶楽部)があるなら、メーリング・リストにも参加してみようと思った

和田氏

- ・ 「視覚障害者へのフォローをすごく意識している」「いろんな人たちに優しい」点に魅力を感じた(=「開発姿勢がよい」)
 - 「使ってみようかな」と思った
- ・ ユーザに優しいところは、(和田氏自身の)仕事の参考になる

- ・ 「尊敬できる人が多いな」と思ったので、メーリング・リスト(電八倶楽部)に参加

寺島氏

- ・ 無料であること
- ・ エディタ・フリーであること
- ・ 1通のメールが1つのテキスト・ファイルになっていること
- ・ ソフトとしての「皮の薄さ」

- ・ メーリング・リストに参加してみて、電八倶楽部の雰囲気・優しさが気に入っている
- ・ 他の技術系メーリング・リストはドライな感じがする
- ・ 「電八倶楽部は、元になったメーリング・リストの時代からそういう雰囲気だった」(福井氏)
- ・ 「初期の頃から温和な人が多かった」(山田氏)

本田氏

- ・ 「電信八号」の魅力は「わかりやすい」こと
 - e.g. ログ・ウィンドウがあるので、サーバとのやりとりがどうなっているかも見えるし、エラーの原因も特定しやすい
- ・ ただし、他の人には薦めない
- ・ 普通の人には既に「メール・ソフト=Outlook」の先入観を持っている
- ・ 「電信八号」はある程度のスキルがあれば使いやすいが、スキルがなければ使えないメール・ソフト

- ・ 電八倶楽部に参加しているが、開発に関してはノータッチ
Windows でのプログラミング経験がないため(「Fortran ならできるが...」)
- 現在のソフトウェア規模
 - ・ ソフトウェアの規模は、石岡氏開発時代とそれほど変わっていない
 - ・ 10 万行以下だと思う
- 福井氏の活動、公式ビルダとしての考え方について
 - ・ 公式ビルドは「他人に使ってもらうもの」なので、致命的なバグが混入しないように心がけている
 - ・ 公式ビルドの作成に当たっては「パッチのとりまとめを機械的にしている」「自分のカラーを出さないようにしている」
 - ・ 公式ビルダになってからは、時間的余裕がなくなり、自分自身でパッチを作ることは少なくなった
 - ・ 公式ビルダになったのは、中村氏のサポートをしようと考えたから
 - 「自分(福井氏)がビルドを引き受けるので、中村氏にはパッチを作って欲しい」というようなスタンスで公式ビルダになった
 - ・ (中村氏と自分(福井氏)のような)役割分担は、自然にできるものだろう。
 - 「できる人ができることをやる」のが理想
 - ・ 自然の成り行きに任せた結果として、どちらが「電信八号」のバイナリを作成するかを明確化しないことになった
 - ・ 電八倶楽部、電八開発倶楽部はボランティアな組織なので、仕事を割り当てるようなことはしたくない
 - ・ 「たとえ公式ビルダが死んでも、コミュニティが生き続けることが理想」
 - ・ シェアウェアは、その名が示すとおり、元来は「モノを共有しよう」という意識で始まっており、使用継続のための支払いも、元来は donation(寄付)だった
 - ・ 現在でも、careware(チャリティへの寄付を求める)、cardware、swapware(何かとソフトウェアを交換する)など、多様な donation(寄付)の形態がある
 - ・ UNIX 的文化とは、「なければ作る」、「作ったものは全体に還元する」

➤ 開発やメーリング・リストへの参加継続の理由

福井氏

- ・ 当初は、大変そうな状況にあった中村氏のサポート、パッチ氾濫という状況の收拾
- ・ 「自分が公式ビルダになれば、みんなに最新のバイナリ版を届けてあげられる」
- ・ 公式ビルダを続けているのは、自己満足
- ・ 「求められれば何でもやる」方なのだが、正直に言うと公式ビルダになるより、パッチ作成を続けているほうがよかった
- ・ プライベート・ビルドを自分で作ることができるので、その方が楽だった
- ・ 公式ビルダになってみて、プライベート・ビルドより作業は大変だが「自分が作ったものが『公式』として認められる」ことの喜びを感じるようになった
- ・ 加えて、「自分で公式ビルド作っていると自分が独自に改善・改良したい点を組み込みやすい」という「実利的」なメリットもある(他人が改良したビルドにカスタマイズを加えるのはめんどくさい)
- ・ 自分が公式ビルダになれば、溜まっているパッチがユーザの元に届くという意味で、みんなの役に立っているという実感がある

岩井氏

- ・ 電八倶楽部に参加し続けているのは、「面白いから」、「勉強になることがあるから」

和田氏

- ・ 電八倶楽部に参加してメールを読んでいると、「ああそうなんだ」と勉強させられることがある
- ・ 同じような質問に丁寧にレスポンスを返したり、レスポンスが速かったりするなど、「何でそこまで手厚いのだろう」と思うこともある
- ・ なぜ他人のためにそこまでサポートできるのかということ(電八倶楽部参加者のメンタリティ)⁴に知的好奇心を持っている

寺島氏

- ・ 「居心地がよい」、「優しさを感じる」
- ・ 「何でそこまで優しく慣れるのかな」と思うときすらある
- ・ 本田氏の「バクダン処理」の仕方が好き
- ・ 電八倶楽部に参加していると、公式ビルドではなく、版が手に入るという実利的な面もある
- ・ メール・ソフトを含めたコンピュータ全般に関し、「道具そのものにこだわりたい」=自分で

⁴ 藤田による補足。

カスタマイズし、メンテナンスしたい、という欲求がある

- ・ 自分でカスタマイズし、メンテナンスしたいので、「奥が見えないと気持ち悪い」気がする
 - 福井氏も同意。「(極論すれば)他人の作ったものなど使いたくない」という気持ち
- ・ 「電信八号」であれば、電八開発倶楽部・電八倶楽部の人たちのものなので、「この人たちのものなら信用できるな」と思える
- ・ いずれは開発に参加したいので、そのための情報が手に入るメリットもある

本田氏

- ・ 「お助けソフト」の情報が得られる
- ・ 不具合を修正して欲しい
- ・ 版を入手したい
- ・ 自分が使うソフトウェアの開発の方向性に注文をつけられる
 - ただし、あくまでユーザであり、開発に間接的にでもタッチしているという意識はない
- ・ 「優しさ」はあまり感じていない
- ・ 本来の仕事でやっている「困った人を助けてあげる」ことを気楽にできる場として電八倶楽部をとらえている面がある
 - 「現実逃避」としての電八倶楽部

山田氏

- ・ 「ないものは作る」の精神で「お助けソフト」を開発
 - サクサク動くビューワとしての「電ラブ」
 - お遊びとしての「電極Z号」
- ・ 「自分が使いやすいように使いたい」と思って開発し、その追加的要素として「使って、喜んでもらえるとうれしい」
- ・ ソフトウェアを開発し、公開したこと自体を評価・承認してもらえることもそうした喜びの一因となっている
- ・ Windows3.1時代には本当に何もなかったもので、いろいろなもの(Windows Popup Biffなど)を開発した
- ・ 現在は「僕が作らなくてもあるから...」と思ってしまい、開発をしなくなっている
 - 「やはり作ること、サポートを行うことは大変、余裕がないとできない」
- ・ 最近では、頭の中に浮かんだコードを実際にエディタで打ち込むことすら面倒になっている
 - もっと若い者に作って欲しい
- ・ 電八倶楽部を辞めるときには、「自分のソフトを使ってくれている人に申し訳ない」という思いが生じ、「決断」が必要だった

➤ 開発組織

関西独自のオンライン上、オフラインでの取り組み、交流の有無

- ・ 「電信八号」関連でのオフライン交流はない
 - オンライン上で実現できているため
- ・ オフラインの交流があるほうが少ない(稀)ではないか
 - 本業ではないから
 - ミーティング的なものよりメーリング・リスト、メールのほうが効率的だから⁵
 - オフ会であろうとしても別スレッドのメーリング・リストから派生
 - 開発について議論することはあまりない
- ・ オフラインで会合を開くとすれば、作者を囲んだ懇親会などであろう
- ・ ソフトウェア作者同士の横のつながりはあまりない
- ・ 開発言語毎のメーリング・リストがあり、その中では勉強会オフはあるようだ
- ・ Linux や BSD 関連の交流はあるが、Windows 系は少ないのではないか
 - せいぜい Japan Windows NT Users Group 「日本ウィンドウズ・エヌティ・ユーザ会」くらい
- ・ Linux や BSD に関しては、企業が啓蒙目的で行うセミナーがある

「電信八号」のリーダーについて

- ・ 「電信八号」のコミュニティは、自然発生的・リーダー不在の特殊なコミュニティ

生稲：「原作者の石岡氏が作成したソースコードの存在、コード公開条件、人柄などがリーダーに代わる役割を果たしているのではないか？」

石岡氏もそうだが、それを熱心に説き、公式ビルドに反映させてきた中村氏の功績も大きいのではないか

藤田：「そうであるとすれば、もともとの組織文化を創ったのが石岡氏で、それを守り育てている、すなわち管理しているのが中村氏であり、現在では中村氏がリーダーとなっていると解釈することもできる」

⁵ 開発者全員が参加してミーティングを開ければ、その方がソフトウェアの開発自体の効率はよいだろうが、物理的・時間的な制約のためにオフラインのミーティングを開くこと自体にコストがかかりすぎるので、メーリング・リストやメールを利用した方がトータルでの効率がよくなるという意味である。

➤ その他

- ・ 「関西オープンソース+フリーウェア 2002」
 - 自由業でフリーのアプリケーション開発を行っている人の交流
- ・ 中野秀男先生
 - 大阪市立大学大学院創造都市研究科教授
 - 大阪近辺の情報関係の色々な活動に参加